

経営比較分析表（令和6年度決算）

神奈川県 三浦市

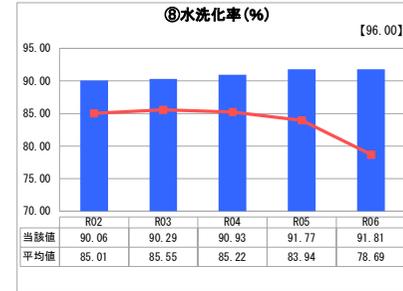
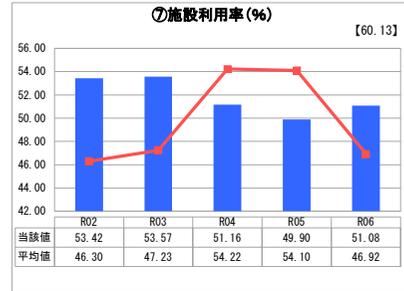
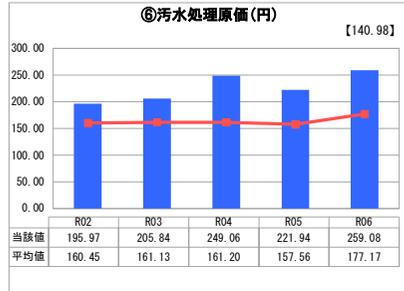
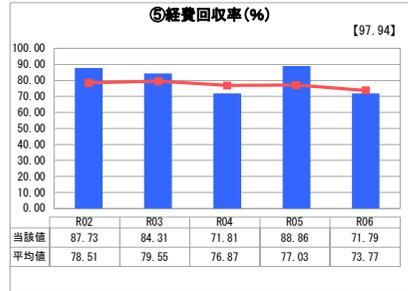
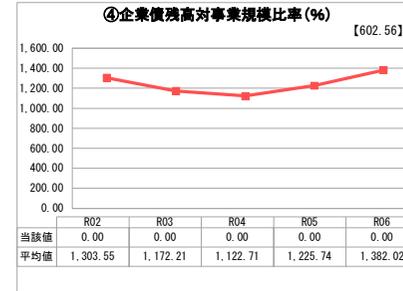
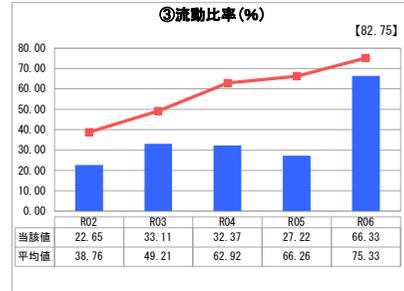
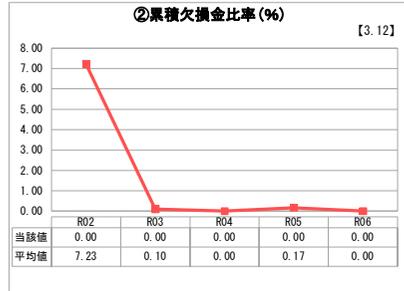
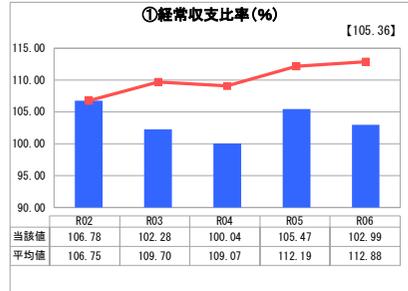
業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cb2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	75.07	36.14	88.96	3,047

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
39,842	32.06	1,242.73
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
14,311	2.17	6,594.93

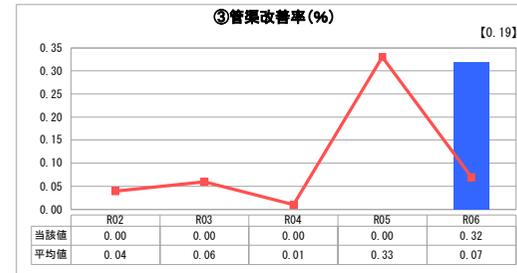
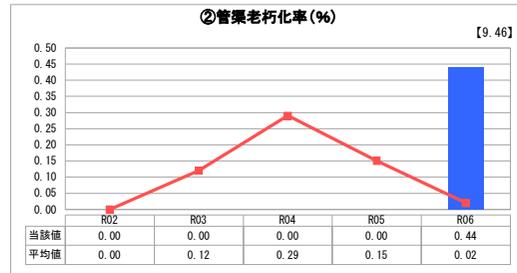
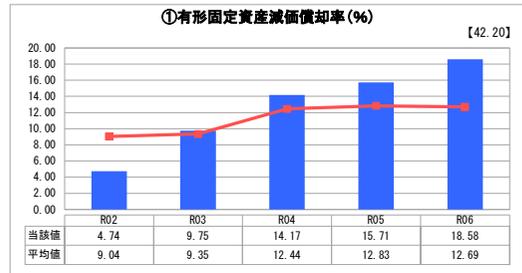
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和2年度から地方公営企業法を全部適用し、企業会計へ移行しました。

① 経常収支比率は、100%を上回っており、単年度の収支は黒字となっています。

② 累積欠損金は、発生していません。

③ 流動比率は、初期投資時に借り入れた企業債の償還金が高額となっているため、低い数値となっています。

④ 企業債残高対事業規模比率は、企業債償還金を一般会計繰入金に依存していることから数値がありません。今後は、企業会計の独立採算の観点から、一般会計繰入金への依存度を下げるよう、経営努力する必要があります。

⑤ 経費回収率は、類似団体平均値及び全国平均を下回っています。そのため使用料改定の検討を必要とあります。

⑥ 汚水処理原価は、人口減少等の影響を受け、年間有収水量が減少し、類似団体平均値を上回っています。

⑦ 施設利用率は類似団体平均値を上回っていますが、今後も、人口減少や節水効果等の影響による汚水量の減少が想定されるため、処理区域の拡大や施設規模の縮小といった方法を検討していく必要があります。

⑧ 水洗化率は類似団体平均値と比較して高い傾向にありますが、経営安定化の観点から、引き続き普及活動を行い、数値を向上させる必要があります。

2. 老朽化の状況について

平成10年度に汚水処理を開始した本市においては、京浜急行線沿線開発時に整備され、移管された管きょや処理場施設等の老朽化が進んでいます。

処理場、ポンプ場及び管路施設のいずれも、ストックマネジメント計画等に基づいた効率的な改築・維持管理を継続してまいります。

全体総括

厳しい経営環境の中、老朽化する下水道関連施設を健全な状態に保ち、安定した汚水処理サービスを将来世代へと確実に引き継ぐため、段階的な経営構造の改善や効率的な改築更新・維持管理が必要です。

そのため、民間事業者のノウハウや創意工夫を取り込み、より効率的な事業経営を行うため、令和5年度から20年間のコンセッション方式を導入しました。

使用料については、人口減少や物価高騰等の影響により、令和8年7月から16%の値上げとなる使用料改定を行いますが、今後も継続して適正な使用料について検討してまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。